



食品ロス削減に向けた 賞味期限表示の大括り化事例

令和2年10月
食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム事務局
公益財団法人 流通経済研究所

-
- 流通経済研究所では、このほど「食品ロス削減に向けた 賞味期限表示大括り化の事例」を作成しました。
 - 食品流通では、食品ロス削減や物流効率化が課題となっております。賞味期限表示の大括り化（年月表示、日まとめ表示）は、それらの課題解決につながることから、取組の拡大が期待されています。
 - 本資料では、賞味期限表示を大括り化した食品メーカーのヒアリングをもとに、各社で認識されている効果や、各社が実施にあたって留意した点などを紹介しています。
 - 賞味期限表示大括り化を検討されている食品メーカー、および流通に関わる皆様の参考になれば幸いです。

本資料についてのお問い合わせは、以下までお願いいたします。

公益財団法人流通経済研究所
流通・国際研究開発室 政策調査担当

電話番号：03-5213-4533

お問い合わせフォーム：https://www.dei.or.jp/form/ryuken_cont

本資料の構成

はじめに：賞味期限表示大括り化の意義と効果

事例 1 アサヒ飲料株式会社

事例 2 味の素株式会社

事例 3 江崎グリコ株式会社

事例 4 カルビー株式会社

事例 5 キリンビバレッジ株式会社

はじめに：賞味期限表示大括り化の意義と効果（1/4）

■ 食品ロス削減

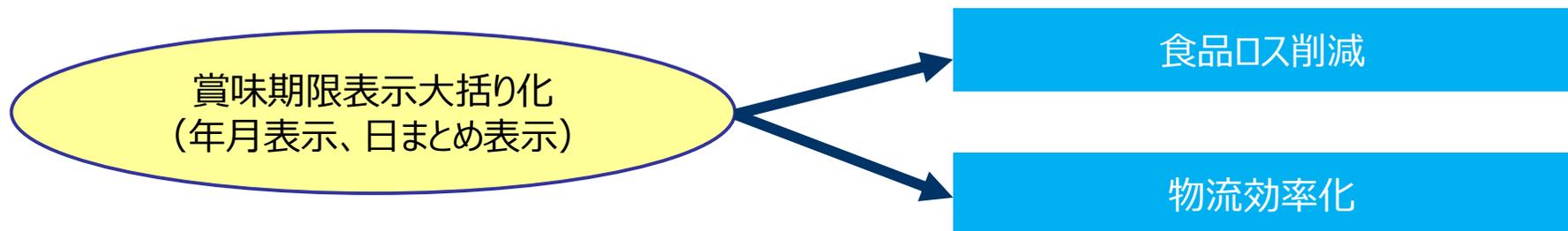
- 流通の現場では、先入れ先出しの商品管理を行っているために、前回よりも賞味期限の古い商品は納入しない慣行となっています。
- そのため、年月日表示の場合には日付順の納入が求められ、前回納入分よりも1日でも古い商品は納入できず、食品ロスの発生につながる場合があります。
- 賞味期限表示を大括り化（年月表示または日まとめ表示（※））することで、日付順の対応から月順の対応に変わるため、こうした事態が起こりにくくなり、食品ロスの発生が抑制されることが期待されます。

（※）

- **年月表示**：賞味期限を「年月日」ではなく「年月」で表示することです。賞味期限が3ヶ月を超える食品は、賞味期限を「年月」で表示することが認められています。
- **日まとめ表示**：年月表示にすると「日」が切り捨てられ、賞味期限が最大1ヶ月短くなります。賞味期限の短縮幅を短くするために、月ではなく10日単位などでまとめる方法が「日まとめ表示」です。

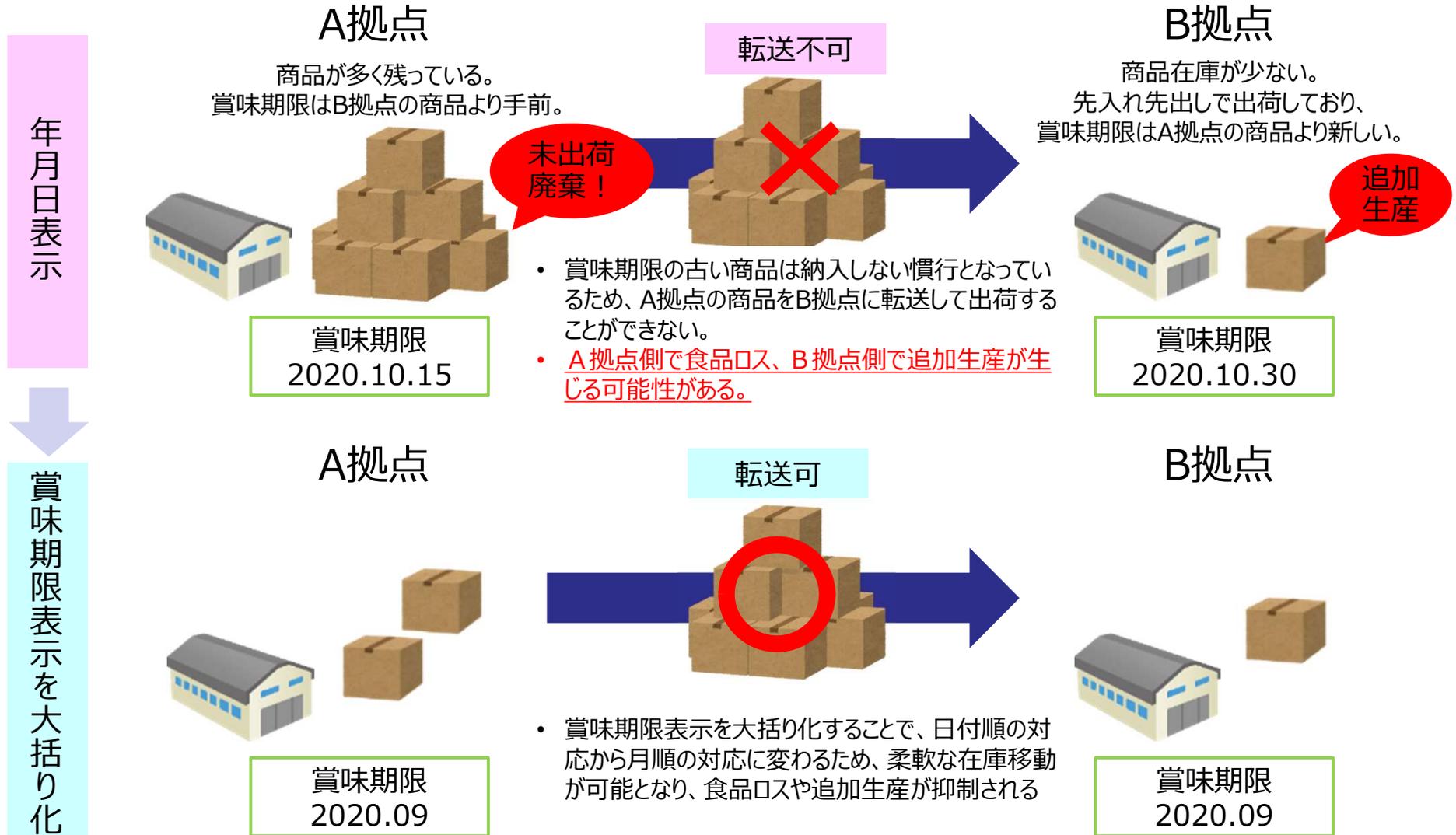
■ 物流効率化

- また賞味期限表示を大括り化することによって、商品の管理単位が少なくなります。
- たとえば、年月日表示から年月表示に変更すると、1商品あたりの管理単位数は365から12にまとまります。
- これにより、製・配・販各層において、保管・配送・入出荷等の物流効率化につながることを期待されます。



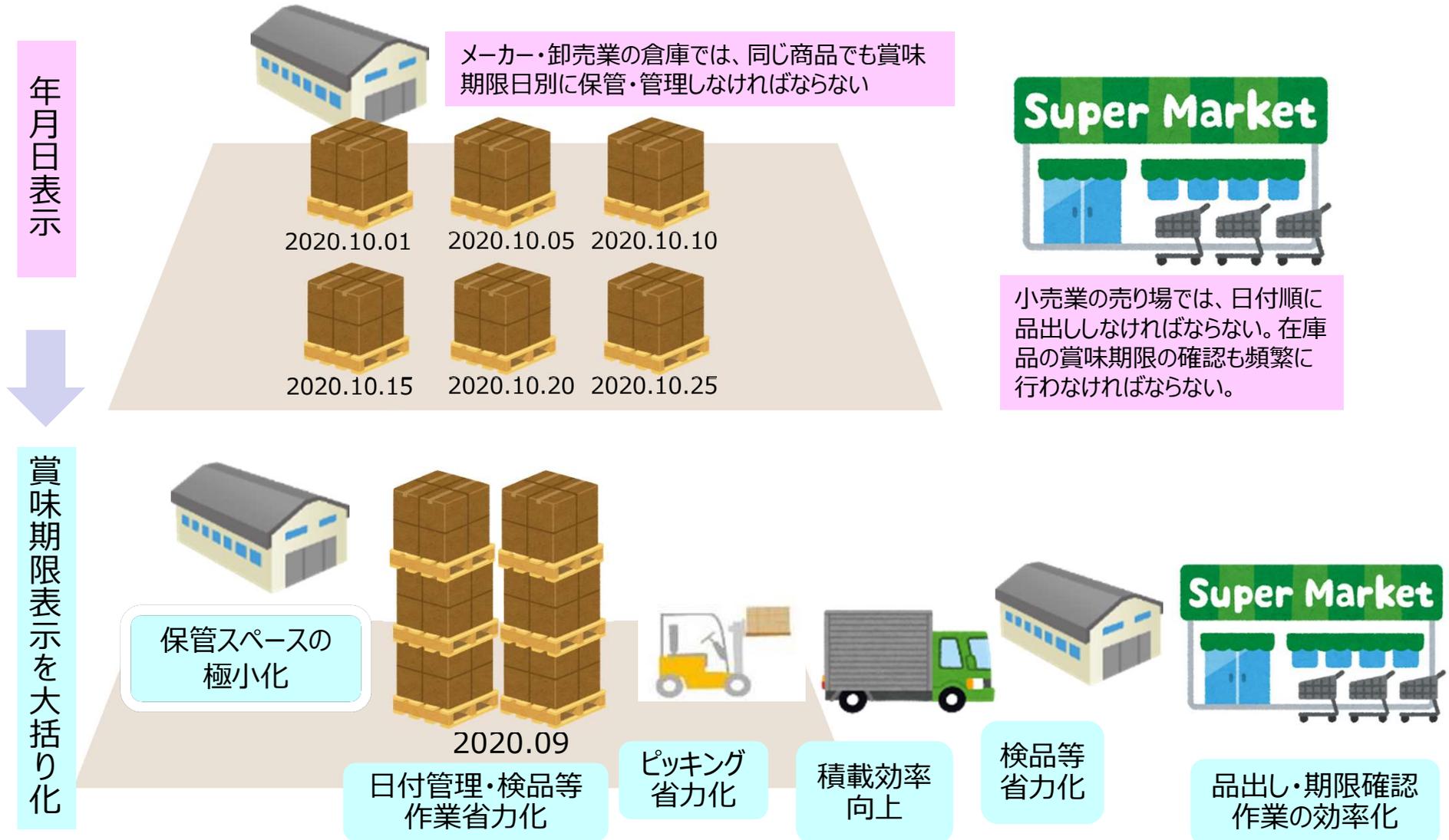
はじめに：賞味期限表示大括り化の意義と効果（2/4） – 食品ロス削減効果

賞味期限の古い商品は納入しない慣行となっているため、物流拠点間の商品の転送ができなかった在庫が、転送可能となることで食品ロス発生が抑制される。



はじめに：賞味期限表示大括り化の意義と効果（3/4） – 物流効率化効果

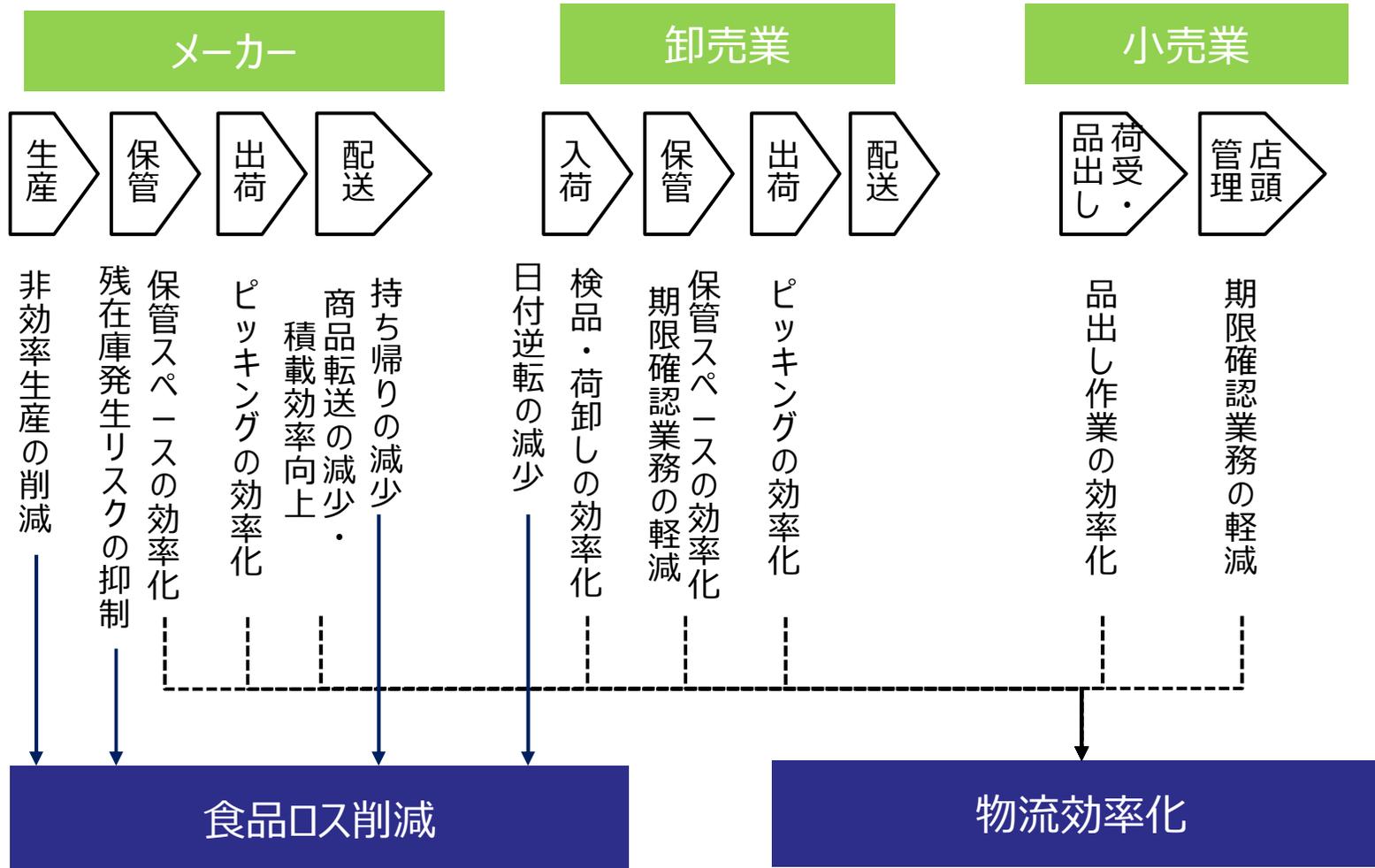
賞味期限表示が大括り化されることで、商品の管理単位が少なくなり、製・配・販各層で保管・配送・入出荷等の効率化が期待される。



出所：農林水産省資料（2020）にもとづき、流通経済研究所作成。

はじめに：賞味期限表示大括り化の意義と効果（4/4）

賞味期限表示大括り化の効果



事例 1 アサヒ飲料株式会社

■ 実施時期・実施内容

実施時期	商品	実施内容
2013年 5月～	「アサヒ おいしい水 富士山」「アサヒ おいしい水 六甲」各PET2L	年月日表示から 年月表示に移行
2017年 4月～	「アサヒ おいしい水 富士山」「アサヒおいしい水 六甲」各PET600ml	
	「アサヒ おいしい水 富士山のバナジウム天然水」の全商品	
2017年 9月～	賞味期限12ヶ月以上の缶、ボトル缶商品	
2018年 4月～	賞味期限 8ヶ月以上の缶、PETボトル商品	

年月表示への移行イメージ

年月日
表示



年月
表示



■ 賞味期限表示大括り化による効果

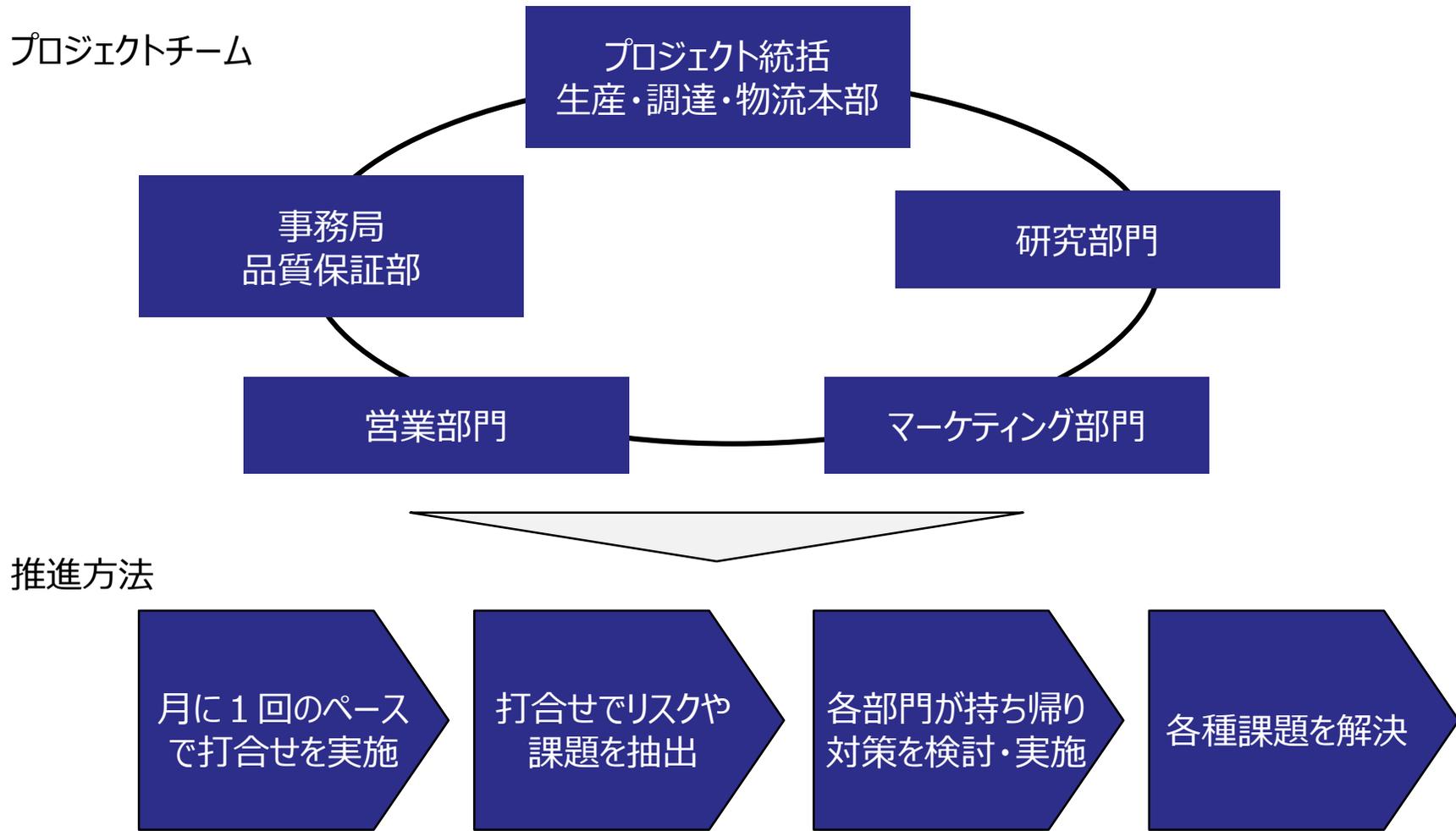
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、保管スペース・保管作業が効率化
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、柔軟な在庫移動が可能となり、食品ロス発生リスクが低減
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、物流部門の管理業務（需給管理・在庫管理等）の負担が軽減

■ 実施方法・実施にあたって留意した点

- 賞味期限延長：年月表示化の対象商品とするため、賞味期限を8カ月まで延長できるものについては、十分な検証をした上で延長を実施
- 印字ミス防止：対象品目を一斉に切り替えるのではなく、徐々に切り替えることにより、設備変更起因する印字ミスの発生を防止

事例 1 アサヒ飲料株式会社：プロジェクト立ち上げによる取組の推進

- 2016年12月、新たに「賞味期限年月表示プロジェクト」を立ち上げて、部門横断で各種課題の解決に取り組み、年月表示への移行を加速させた。



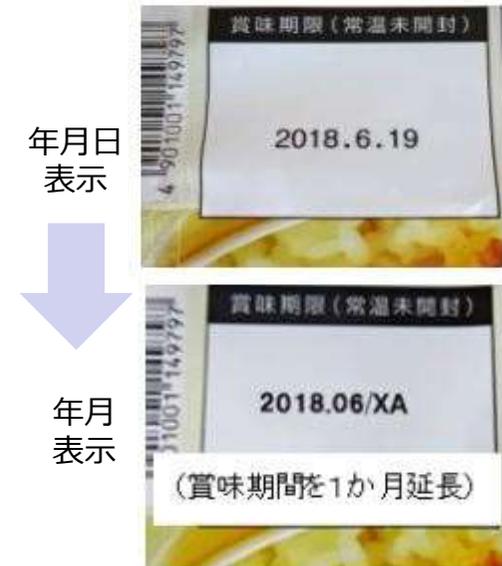
出所：アサヒ飲料株式会社ヒアリングをもとに経済研究所が作成。

事例 2 味の素株式会社

■ 実施時期・実施内容

実施時期	主な対応製品	実施内容
2017年2月発売の 3品目	「味の素 K K ふんわりかに玉の素」、 「味の素 K K 麻婆春雨」	年月日表示から 年月表示に移行
2017年8月発売の 70品目	「クノール® カップスープ」、 「味の素 K K コンソメ」、「鍋キューブ®」他	
2018年2月発売の 54品目	「C o o k D o®」、 「C o o k D o®きょうの大皿®」他	
2018年8月発売の 49品目	「ほんだし®」、「味の素 K K 中華あじ」、 「丸鶏がらスープ」他	

賞味期限表示例
(賞味期間を延長して「年月」表示する場合)



■ 賞味期限表示大括り化による効果

- 商品管理区分が月単位にまとまることで、検品時間が効率化され納品時間が減少
- 在庫を月単位で管理できるようになり、在庫の偏在を防ぐための拠点間配送が減少
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、物流混乱時でも在庫調整がしやすくなり、災害への対応力が向上

■ 実施方法・実施にあたって留意した点

- 賞味期限延長：賞味期間が1年以上の家庭用製品を対象に、「年月表示化」に伴い賞味期間が短くならないよう、現行期間を原則1カ月以上に延長できることを確認し、「年月表示化」を実施
- 消費者対応：消費者からのお問い合わせには、「フードロス削減の取組である」ことを説明し、ご納得をいただいた

事例 2 味の素株式会社：部門ごとの取組内容

- 各部門が連携して、それぞれ以下の役割を担い、年月表示への移行を進めた。

広報・渉外

業界団体・メディア対応

情報システム

基幹システム・各種情報システムやインターフェース改修

開発

賞味期間延長

技術標準書
改訂

生産

検査装置・管理
システムの改修

生産・出荷管理方法
の見直し

物流

倉庫CPU・物流
システムの改修

入在庫・検品
オペレーションの見直し

販売

お客様へ
のご案内

品質保証

賞味期限表示ルール改訂

お客様
相談センター

お問い合わせ対応手順見直し

事例3 江崎グリコ株式会社

■ 実施時期・実施内容

実施時期	商品	実施内容
従来より実施済	チョコレート、ビスケット、キャンディー等	年月日表示から年月表示に移行
2015年2月より順次実施	カレールーや賞味期限が1年以上のレトルト食品等	

賞味期限年月表示化対象商品例



■ 賞味期限表示大括り化による効果

- 在庫を月単位で管理できるようになり、在庫の偏在を防ぐための拠点間配送が減少
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、物流部門の管理業務（需給管理・在庫管理等）の負担が軽減
- 品出し業務の軽減につながるなど、取引先からは協力的・好意的な反応

■ 実施方法・実施にあたって留意した点

- 推進体制：営業、物流、製品開発、研究など、全社的な横断プロジェクトを推進
- 賞味期限延長：賞味期限表示が最大で30日短縮されるため、賞味期限を最大で1ヶ月延長して対応
- JANコード（※）は変更せずに賞味期限表示大括り化を実施

（※）JANコード：「どの事業者の、どの商品か」を表す、世界共通の商品識別番号。商品パッケージには、バーコードスキャナで読み取れるよう、バーコード化され表示されている。

事例 3 江崎グリコ株式会社：実施スケジュール

2015年の江崎グリコ株式会社の賞味期限表示大括り化の実実施スケジュール

時期	実施内容
2014年9月以前	取引先の反応の事前ヒアリング
2014年9月	経営幹部への報告
2014年10月	対象商品の決定
	対外対応準備完了
	営業現場への説明実施
	生産部門での対応準備開始
2014年11月	取引先への案内開始
2015年2月以降	年月表示への変更開始

事例 4 カルビー株式会社

■ 実施時期・実施内容

実施時期	商品	アイテム数	実施内容
2019年6月1日～	成形ポテトチップス（ポテトチップクリップス）	9アイテム	年月日表示から 年月表示に移行
2019年10月1日～	ポテトチップス（堅あげ含む）	255アイテム	
2020年3月1日～	Jagabee （じゃがビー）	40g（スタンドパック型）	
		80g（16g×5袋入り）	



■ 賞味期限表示大括り化による効果

- 商品管理区分が月単位にまとまることで、保管スペース・保管作業が効率化
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、柔軟な在庫移動が可能となり、非効率生産や残在庫の発生を抑制し、食品ロスを削減
- 在庫を月単位で管理できるようになり、在庫の偏在を防ぐための拠点間配送が減少
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、物流混乱時でも在庫調整がしやすくなり、災害への対応力が向上
- 先入れ先出し・検品に伴う作業負担の軽減につながるなど、取引先からは協力的・好意的な反応

■ 実施方法・実施にあたって留意した点

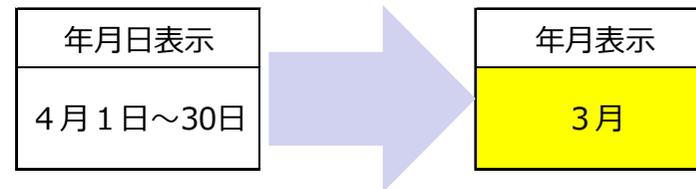
- 推進体制：プロジェクトチーム（生産、マーケティング、品質保証、物流、情報システム、お客様相談室、開発）を中心に販売、購買部門なども連携して取組を推進
- 情報システムの改修：移行にあたり、社内情報システムの改修（「年月」という概念の導入）を実施
- JANコード（※）は変更せずに賞味期限表示大括り化を実施

（※）JANコード：「どの事業者の、どの商品か」を表す、世界共通の商品識別番号。商品パッケージには、バーコードスキャナで読み取れるよう、バーコード化され表示されている。

事例4 カルビー株式会社：賞味期限を延長した上で、賞味期限表示大括り化を実施

- 賞味期限を延長せずに表示を大括り化すると、賞味期限表示は最大1ヶ月短くなります。
- カルビー株式会社では、賞味期限表示大括り化に向けて、2014年から賞味期限延長の検討に着手し、品質的な見通しが立ち、賞味期限を延長した上で、賞味期限表示大括り化を実施しています。

賞味期限の延長をせずに「年月表示」に移行した場合



カルビー株式会社の事例の場合

対象商品の賞味期限を延長して、年月表示に切り替えているため、賞味期限が短くなっていない。

実施時期	商品		賞味期限の延長		アイテム数
			延長前（年月日表示）	延長後（年月表示）	
2019年6月1日～	成形ポテトチップス（ポテトチップクリスプ）		12ヵ月	13ヵ月	9アイテム
2019年10月1日～	ポテトチップス（堅あげ含む）		4ヵ月	6ヵ月	255アイテム
2020年3月1日～	Jagabee （じゃがビー）	40g（スタンドパック型）	4ヵ月	6ヵ月	17アイテム
		80g（16g×5袋入り）	3ヵ月	6ヵ月	

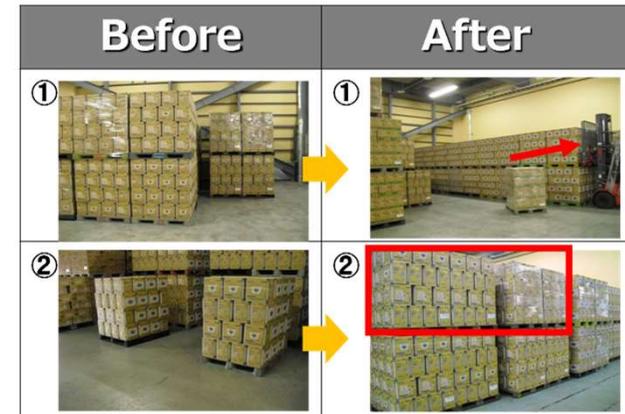
事例 5 キリンバレッジ株式会社

- 実施時期・実施内容：商品全体の90%程度を「年月表示」及び「日まとめ表示」へ移行済

賞味期限表示大括り化実施済	表示方法	
	賞味期限 1 年未満	賞味期限 1 年以上
賞味期限180日以上PET、缶、紙、瓶商品	日まとめ表示 (旬管理)	年月表示

賞味期限表示大括り化による
保管効率向上イメージ

商品管理区分がまとまることで、従来は分けて保管していた商品を、同じ場所に保管できるようになる



- 賞味期限表示大括り化による効果

- 商品管理単位数が減少したことで、物流部門の需給管理・在庫管理等の業務負担が軽減
- 在庫を月単位で管理できるようになり、在庫の偏在を防ぐための拠点間配送が減少
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、在庫日付の確認、在庫引当、ロケーション決定などの業務負担が軽減
- 商品管理区分が月単位にまとまることで、保管スペース・保管作業が効率化

- 実施方法・実施にあたって留意した点

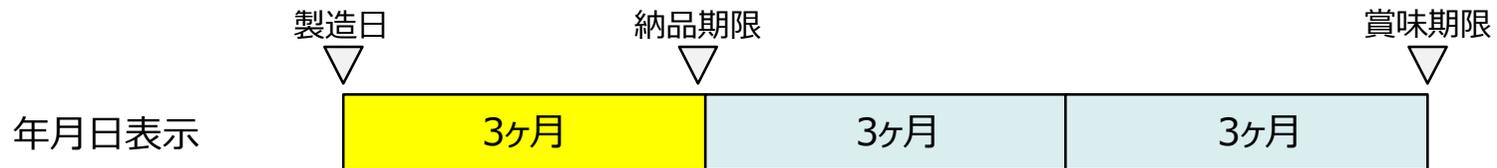
- 日まとめ表示の導入：賞味期間が短くなるほど、年月表示化による納品期限短縮が大きくなり、廃棄リスクが高まる。リスクを抑えるため、賞味期間 9ヶ月以上12ヶ月未満品は「年月表示化」ではなく、10日単位にまとめる「日まとめ表示化」(旬管理)とした
- 情報システムの改修：倉庫管理及び製品需給管理に関わる在庫管理システムを年月表示化に対応させることが必要
- JANコード(※) 変更なしでの移行するための対応：月の途中で年月表示に移行すると、移行後の商品が移行前の商品より古い賞味期限表示となり出荷できなくなるため、月替わりのタイミングで実施

(※) JANコード：「どの事業者の、どの商品か」を表す、世界共通の商品識別番号。商品パッケージには、バーコードスキャナで読み取れるよう、バーコード化され表示されている。

事例5 キリンバレッジ株式会社：賞味期限が短い場合の対応－「日まとめ表示」

- キリンバレッジ株式会社では、賞味期限が短い商品の場合、年月表示ではなく、10日単位に表示日付をまとめる「日まとめ表示」（旬管理）で対応しています。

商品の元の賞味期限が9ヶ月、納品期限が賞味期限2/3残しの場合



店舗への納品期限が2/3（最大）になる



店舗への納品期限の減少幅を10日（最大）に抑えることができる

廃棄リスク増加を抑えることが可能

「日まとめ表示」の表示方法

年月日表示	日まとめ表示
4月1日～10日	3月31日
4月11日～20日	4月10日
4月21日～30日	4月20日

出所：キリンバレッジ株式会社資料および同社ヒアリングにもとづき、流通経済研究所作成。